



今回は 探究活動を生かした進路実現 の報告です。

◇ 林憂南さん（岐阜県立看護大学看護学部）の体験記！

おもな活動記録

- ・2019年度 第2回ダイバーシティSEKIシンポジウム 企画・運営
- ※ LGBT問題に関わる啓発活動
- ・コミュニティFMにておラジオ 出演

国際的な視野をもち、社会を変革するリーダー育成のための教育活動—SGH。

課題解決型研究やキャリア教育等を通して、思考力、コミュニケーション力、知識・技能等を向上させ、豊かな人間性をもち、社会に貢献できる担い手を育成しています。この大学入試だけにとらわれないSGH教育で私は様々なことを学ぶことができました。

特に、課題解決型研究は私の中でとても大きな学びでした。私たちの研究チームは、LGBTをテーマに、小学校低学年向けの啓発紙芝居を、関市役所の方々と中部学院大学の方々と協働して製作しました。私たちは紙芝居のシナリオを担当したのですが、完成に至るには紆余曲折ありました。当事者の方からのアドバイスを受け、一度完成したシナリオを最初から作り直したこともありました。しかし、この過程が私たちに、LGBTについて、また、子どもに啓発するという点について、今一度考え直す機会を与えてくれました。この機会がなければ、かなり浅い理解によって啓発を行ってしまっていたのではないかと思います。この機会に考え直すことで、私たちはLGBTの方々を支援しなければいけない特別な方たちだと、無意識に思っていたことに気づきました。性などの固定概念がまだ根づいていない年の子どもたちに、私たちが本当に伝えなければいけないことは、一人一人が違うという多様性を当たり前を受け入れることの大切さではないかと考えました。LGBTに限らず、人の多様性を尊重し合うことについて、活動を通し、実感として学びました。とても良い学びができる貴重な機会を与えてもらいました。

私は大学を小論文と面接で受験しましたが、SGHの活動について、面接で話しました。やはり、特色ある実体験は、自分をアピールする際に最も有利です。しかし、「特色ある実体験」というのは、自分から挑戦していかなければ決して得られません。普段から、自分の興味のあることについて、貪欲にキャッチし、どんどん挑戦し、得た経験、自分の中にある思いや考えを、自分の言葉で形にしていく。これを繰り返していくことがとても大切だと私は考えています。やってみたこと、頑張ったことで無駄になることは一つもありません。全てが自分の糧となります。悔いの残らないような日々を過ごしてほしいです。



ラジオ出演のようす(写真左) ダイバーシティSEKIシンポジウム(写真右)